

2019 年度自己点検・評価フォーム
(全学委員会用)

図書館運営委員会 (図書館事務部)

(図書館運営委員会承認済)

【基準8】教育研究等環境

点検・評価項目

- (1) 図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えているか。また、それらは適切に機能しているか。
- (2) 図書館、学術情報サービスの施設環境の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【評価の視点】

◎図書資料の整備と図書利用環境の整備

・図書、学術雑誌、電子情報等の学術情報資料の整備、国立情報学研究所が提供する学術コンテンツや他図書館とのネットワークの整備、学術情報へのアクセスに関する対応、学生の学習に配慮した図書館利用環境（座席数、開館時間等）の整備

◎図書館、学術情報サービスを提供するための専門的な知識を有する者の配置

◎適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価、点検・評価結果に基づく改善・向上

【記載の際に考慮すべき点】

- ① 学生の学習及び教員の教育研究活動の必要に即し、図書その他の学術情報資料は、どのように整備されているか。
- ② 学生及び教員の利用に配慮し、図書館にどのような職員が配置されているか。
- ③ 図書館、学術情報サービスの施設環境は、利用の促進にどのような効果をもたらしているか。
- ④ 図書館、学術情報サービスの施設環境に関する自己点検・評価は、どのように行われているか（基準、体制、方法、プロセス等）。
- ⑤ 自己点検・評価結果に基づき、教育研究等環境の改善・向上に向けた取り組みは、どのように行われているか。

【現状説明】※評価の視点を踏まえ、具体的に記載してください。

< 評価： **A：目標が達成されている** >

- (1) 図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えているか。また、それらは適切に機能しているか。

◆図書館の構成及び資料の収集・整備

東洋大学附属図書館は、白山・川越・朝霞・板倉キャンパスの各図書館と板倉キャンパスに設置の保存書庫で構成されており、学生及び教職員は、すべての図書館を利用することができる。各館は「東洋大学附属図書館の理念」(8-1-1p73)に基づき、共通の理念・目的のもとで運営している。体系的な蔵書構築を図るため、資料収集にあたっては「東洋大学附属図書館の理念」、「東洋大学附属図書館収書及び選書方針」(8-1-1p74)に基づき、学問分野ごとに専門性の高い資料は、各学部等に選書を依頼するとともに、大学及び図書館として教養を深化させる要求に応えるべく、様々な特色ある蔵書を構築するよう、蔵書収集及び選書に係る体制を整備している。教育に関わる資料収集に加え、研究に関する資料・データベースも大学院各研究科の教員等に選書を依頼して収集し、広く学術の発展に寄与することを目的としている。

また、学生からのリクエストによる資料購入も行っている。貸出や整理・保存等については、諸規程に準じて運用している。

なお赤羽台キャンパスでは、設置されている情報連携学部のコンセプトに従い、冊子体の図書を置く図書館ではなく、学部の教育研究施設として、メディアセンターを設置している。

電子媒体資料について、各学部等からの新規導入希望を受けて毎年データベースや電子ジャーナルの契約数を増加させており、2018年度は138タイトル(8-1-1p48~49)まで増加した。

また、電子ブックも積極的に導入を続け、23,490タイトルまで増加した(8-1-2)。OPACで検索可能な電子ブックは、本文閲覧までのワンストップサービスを実現している。

これらの電子媒体資料については、2015年度に学外からのアクセス環境を整備したことで利用者の利便性が向上した。

なお、2020年度からは、これらの電子情報や所蔵資料の一括検索を可能とする「ディスカバリーサービス」を導入する。さらに同年度の図書館システムリプレイスに伴い、貴重書の情報を検索可能にして画像とともに公開する計画を進めている。これらの運用開始後は電子情報の利用活性化、貴重書の閲覧・貸出希望の増加が予想され、学内の利用者サービス向上に加え、社会への一層の貢献が期待できる。

図書館で所蔵する代表的な貴重書は、重要文化財の古写本『狭衣』を筆頭に、鎌倉期の歌人阿仏尼の筆とされる『はゝき木』、『酒顛童子絵巻』『長恨歌』などの奈良絵本・絵巻、井原西鶴『西鶴諸国はなし』、十返舎一九『東海道中膝栗毛』、曲亭馬琴『南総里見八犬伝』といった近世文学の初版本、無頼派を代表する作家であり本学卒業生の坂口安吾の直筆原稿や初版本、学祖・井上円了の学術研究に関連する資料として『妖怪絵巻』『百鬼夜行之図』などの妖怪関係資料、『純粹理性批判』をはじめとするカントの三大批判書の初版本等があり、その他、多くの貴重書を有している。これらの一部は現在もホームページで詳細な解説とともに紹介している。合わせて、過去に出版した図録をデジタル化して掲載しており、100点以上の図版と解説を見ることができる。125周年記念事業特別展示の図録においては全掲載資料の解説に英訳を併記し、本学の学術研究の成果を国内外へ発信している。(8-1-3~5)

◆閲覧席と書架の確保・学習スペースの拡充

各館の閲覧席数は右記のとおりである。白山図書館の学生収容定員は、近年の学部改組や募集定員の増加のため、収容定員に対する座席数の割合が7.9%となっている。これにより、学期末試験期間は館内が混雑することもある。白山以外の各館は十分な座席数を確保している。

書架スペースについて、日々増加する資料を書架に配架(収納)するが、館によっては書架が不足している。特に白山図書館では、収容能力を超える分について毎年、板倉保存書庫へ移送している。板倉保存書庫の棚数は18,204棚

(8-1-1p68)で、1棚に25冊を配架すると、収容能力は約45万冊だが、2018年度までに約28万冊の図書資料を移送しており、将来的な書庫計画について検討する必要がある。

学習スペースについて、2013年度に白山第2キャンパスの学部・研究科が白山キャンパスに移転した際、白山図書館の拡充と同時に、新たにラーニング・コモンズを設置し、学生や教員が共同して自由かつ主体的に学習できる環境を整えた。その後、川越・朝霞・板倉の各館においてもラーニング・コモンズの機能を有した多目的学習スペースやグループ学習室等を設置(8-1-7「図書館ガイド」各館フロアガイド参照)し、利用者の学習・研究活動の活性化を支援している。

◆学習支援及び利用者サービス

各館では、学部や授業等と連携して学習支援を目的として図書館の効果的な活用を促進するため、新入生ガイダンス、情報検索ガイダンス、データベース活用ガイダンス、授業別ガイダンス、図書館ツアーなどを毎年実施

閲覧席数と収容定員に対する割合

	閲覧席数	学生収容定員	収容定員に対する割合
白山図書館	1,582	19,903	7.9%
川越図書館	537	4,557	11.8%
朝霞図書館	364	2,302	15.8%
板倉図書館	281	1,860	15.1%
計	2,764	28,622	9.7%

2019年3月31日現在
(座席数(8-1-1p67)、学生収容定員(8-1-6))

している。授業別ガイダンスでは、教員からの要請を受けて学生に情報検索実習のサポートを行っている（各種ガイダンスの実績数 8-1-1p10）。また、ガイダンス以外にも各種利用案内リーフレット（8-1-8）を作成し、館内配布及びホームページ上での公開を行っている。

各館では、図書館の利用促進を目的として、自館の所蔵資料展示等、それぞれの特徴を生かして様々なイベントを開催している（8-1-1p11～19）。白山図書館では、2018 年度に貴重書の展示会を開催した。川越図書館では、2016 年度より館内の所蔵資料展示を理工学部や総合情報学部と連携して実施する「コラボレーション展示」や「ライブラリーカフェ」等を毎年行っている。朝霞図書館では、貴重書の展示やタイムリーな話題を題材としたミニ展示、講演会等を開催している。板倉図書館では、「サイエンスカフェ」と称した、近隣住民も参加できる公開講座を図書館内で実施している。この他にも川越キャンパスの 2 学部長と川越図書館長との懇談会を継続して開催し、図書館の取り組みや課題などの情報を発信するとともに学部の動向や学習支援の要望などの情報収集を行い、図書館と学部の連携強化の推進に役立てている。

増加する留学生へのサービス拡充を目指して、白山と川越図書館において、2018 年度より平日の授業実施日には英語対応可能なスタッフを常駐させている。

開館時間については右記のとおり、授業開始前から最終授業の時間まで開館している。また、試験時期（7 月・1 月）には時間延長や休日開館を行っている（開館カレンダー 8-1-9）。

赤羽台キャンパスにおけるメディアセンターでは、PC に関する支援カウンターなどがあり、情報連携学部での学修の場となっている。

また、このメディアセンター設置に伴い、大学全体として、電子ジャーナルや電子ブックを大幅に充実させた。電子ジャーナルや電子ブックは学内だけではなく学外からもアクセスし、図書館やメディアセンターの開室時間を問わず使用できるという利点もある。

なお、大学全体の仕組みとして、赤羽台キャンパスにおいても、他キャンパスの附属図書館の蔵書を取り寄せる体制も整えている。

◆学内外の情報連携

総合大学としてのメリットを生かし、教育及び研究活動を一層支援するため、全 4 館と板倉保存書庫の図書資料の予約・配送サービスを行っており、土日を除く翌開館日には、各キャンパスの利用者へ速やかに提供できるようにしている。このようにして、各キャンパスにある学部等に則した学問分野や蔵書構成等の特徴を生かし、図書館機能を一体的に高めるよう努めている。

OPACでの蔵書検索では、学内の他キャンパス図書館からの取寄せ等のサービスが利用できるだけでなく、本学の所蔵資料と CiNii（NII 学術情報ナビゲータ）を同時に検索でき、ファセットブラウジングといった絞り込み機能などを追加して利便性の向上を図っている。学外との連携については、国立情報学研究所（NII）の目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）に参加しており、全国の大学図書館の所蔵検索及び貸借・文献複写等の相互協力を展開している。これらは OPAC を通じて学外からでも申し込むことができる。

また、2020 年度稼働に向けて図書館システムリプレイスを行い、更なる利用環境の改善を目指している。

図書館ネットワークとしては、白山図書館で加盟している「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」、「大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）」、「オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）」、「佛教図書館協会」を始め、川越図書館では「埼玉県大学・短期大学図書館協議会」、朝霞図書館では「埼玉県図書館協会」、板倉図書館では「群馬県大学図書館協議会」に加盟し、協定加盟館との相互利用や資料貸借など積極的な協力を努めている。特に 2015～2016 年度においては、約 520 館もの私立大学図書館が加盟する「私立大学図書館協会」の会長校として、また 2017～2018 年度は監事校として活動し、同協会の運営に尽力した（8-1-10）。

授業実施日の開館時間

	平日	土曜
白山図書館	8:30-22:00	8:30-20:00
川越図書館	8:30-20:00	8:30-16:00
朝霞図書館	8:45-20:00	8:45-16:00
板倉図書館	8:30-19:00	8:30-16:00

◆研究成果のオープンアクセス

本学の研究者の研究論文等を学外に発信するために2008年度から学内で機関リポジトリ構築の検討を進め、2011年度に「東洋大学学術情報リポジトリ規程」(8-1-1p93~94)を作成して図書館が管理・運用の実務を行うことになった。これを受けて2012年度から「東洋大学学術機関リポジトリ」として一般に公開している。

◆地域連携

近隣地域との連携として、白山図書館は文京区・板橋区・北区、川越図書館は川越市・鶴ヶ島市・坂戸市、朝霞図書館は朝霞市・志木市・新座市・和光市、板倉図書館は邑楽郡・館林市・古河市・栃木市の住民を対象に図書館を開放している(白山は夏季・春季休暇期間のみ)。

◆職員の配置

閲覧業務(利用者対応等窓口業務)を外部委託し、司書の資格を有したスタッフが常駐してレファレンスその他利用者サービス対応を行っている。業務委託化により、専任職員は資料管理業務や図書館システムの運用を含む安定的な図書館運営に加え、他大学図書館との連携や学習支援に関する企画・運営等の業務を行い、所蔵資料展示や各種講演等のイベントを通して学生の積極的な学習を促している。

職員の出張や研修についても、他大学や研究機関、企業等が実施する図書館関係の研修会や講演会、見学会等への参加を積極的に推進している。

上記のとおり、図書館では学術情報サービスを提供するための体制を備えており、今後も多面的に検証し、より充実させるための努力が必要であるが、現状では適切に機能していると判断する。

(2) 図書館、学術情報サービスの施設環境の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

東洋大学附属図書館に関する運営状況は、毎年7月頃に作成する『東洋大学附属図書館業務運営年次報告』(8-1-1)に集約・記載し、学長に報告するとともに学内のグループウェアを通じて全教職員に周知している。この報告書の作成によって図書館の有する資料とその管理運営の実績、図書館が現在直面している課題とその解決方法について自己点検・評価を行うとともに、学内外からの各種調査の依頼に、迅速に対応できる体制を整えている。また、この『東洋大学附属図書館業務運営年次報告』や各委員会・会議における業務報告があることで、常に報告を行うことを意識して業務に取り組む姿勢が図書館事務部に育っている。

図書館の運営については、「東洋大学附属図書館規程」(8-1-1p75~77)に則り、<東洋大学附属図書館運営委員会>が統括を行っている。ここで審議・報告される事項のうち、全学に係る事項は館長・副館長会議、各館に係る事項は各館運営委員会で予め協議・審議されるという過程を経ている。これらは遺漏がないよう年間の開催日程を定めており、業務運営の点検・評価、新規取り組みの検討などが組み込まれている。

また、レファレンスその他の利用者サービス対応においては、利用者サービスの向上を目的とした取り組みとして、利用者からの要望や意見を投書形式で受け付けており、利用者からの評価として業務改善に役立っている。

東洋大学学術機関リポジトリ
登録数と利用数

学術雑誌論文	9件
学位論文	241件
紀要論文	6,906件
図書	53件
その他	195件
アクセス数	352,854
ダウンロード数	1,671,675

※各登録数は2019年3月31日現在までの累積数、アクセス数とダウンロード数は2018年度の実績です。

(8-1-11)

資料収集に関しては、近年急激に契約対象が拡大したデータベース・電子ジャーナルの管理を統括するために、〈データベース・電子ジャーナル委員会〉（館長、副館長、図書館事務部長、各館課長以上で構成）を設置している。ここでは導入タイトルの精査や利用状況の検証、新規契約や契約の更新・中止等に関する検討を行い、予算の効率的な執行を目指している。これらの作業の基礎となる利用統計の集計、学部等への検討依頼、契約更新可否の決定は年間スケジュールを定例化しており、計画的に業務が遂行できているかを随時確認している。

また、建学の精神を継承する資料や特色ある蔵書群を収集・所蔵することは、学術振興への貢献や本学の学術的地位の向上が期待できるが、対象資料は貴重書もしくはそれに準じるものが多く、高額の予算を運用することになる。そのため、既存の委員会や規程を見直し、2019年度から新たに「東洋大学井上円了学術コレクション取扱要領」（8-2-1）を施行した。これによって資料収集方針や購入手続きを透明化し、一部の教員にしか認識されていなかった貴重書収集を全学的な事業として推進する体制を整えた。

さらに、情報関連技術の急速な発展や学生の学習形態の多様化が進む中で、これらに対応した利用者サービスの充実や施設の整備を実現するために、新しいサービスに関する研修や他大学図書館との情報共有を積極的に行い、そこで得た知見を館長・副館長会議等で共有し、本学図書館が直面する課題に応用すべく、検討している。

現在のところは施設狭隘化の問題や、今後図書館に求められる機能やサービスについての調査・分析を行っている。

開館時において日常的に行う窓口業務においては、閲覧業務委託会社と毎月の定例報告会を開催し、利用者の動向や要望、館内PCや学習室などの稼働状況を確認しており、これによって施設・設備の整備やサービスの改善に結びつけている。自己点検・評価活動実績の一例として、利用者からの更なる時間延長の要望を受け、2014年4月より各館の実情に合わせて開館時間を設定できるように規程の改正を行った。これによって、以前は9時開館だったが、全館で開館時間を授業開始前の8時45分とし（早朝利用の多い館では2017年度から8時30分）、白山図書館においては平日22時まで開館している。

このように図書館の提供するサービス等について定期的に点検・評価を行っているが、図書館外からも利用可能な電子資料が増加し、図書館の利用方法が変わりつつあることを踏まえて、新たな評価指標の導入について検討している。

点検・評価項目（1）（2）を通して、長所、問題点、将来に向けた発展方策を記載してください。

【取り組みの特長・長所】

従来通り新刊資料の収集を遺漏のないよう継続していることに加え、電子資料の導入など、時代の変化に即した活動を行っている。年度ごとの契約となる電子資料はその特性を活かして定期的な利用状況の把握（8-1-1p50～66）と見直しを行い、惰性によらない運用を年間計画のもとで実行している。また、インターフェイスの更新で利便性の向上を図るなど、常にサービス向上の取り組みを続けている。学内との連携も、紀要の他大学発送の取りまとめから機関リポジトリの管理運用へと、役割を変化させつつ対応している。

図書館利用者のニーズを汲みとることも心がけており、開館時間の延長や多角的な利用指導、ラーニング・コモンズの設置など、限られた人員や空間を活用しつつ具体性のある取り組みを続けてきている。

また、展示・イベントを開催して学生の学習意欲向上や多様な興味関心の喚起につとめており、貴重資料の収集・公開によって社会貢献や学術的地位の向上にも意識的に取り組んでいる（8-1-1p11～19）。

このような活動は図書館運営委員会や館長・副館長会議で定期的に報告するだけでなく、毎年作成する業務運営年次報告にまとめており、これらがPDCAの実行に結びついている。

【問題点・課題】

- ・白山図書館においては、閲覧席数の不足から利用者の多い時期には混雑することがあるため、書架等の配置替え等で空きスペースをつくり、少しでも多くの閲覧席を設置するよう努力しているが、混雑緩和に向けた検討を継続する必要がある。
- ・白山図書館では、図書資料の増加に対して書架スペースが不足しており、毎年2万冊程度を板倉保存書庫へ移送している。板倉保存書庫の棚数は18,204棚（8-1-1p68）で、1棚に25冊を配架すると、収容能力は約45万冊だが、2018年度までに約28万冊の図書資料を移送しており、8年後には書架がほぼ満杯になることが想定される。今後の蔵書管理が課題である。
- ・図書資料の収容能力の限界が見え始めたため、館によっては近年の利用実績がない図書資料を除籍して所蔵冊数を減らし、書架が満杯になる時期を遅らせることができる一方で、学習研究支援や学術レベル維持に影響を及ぼすことが懸念される。

【将来に向けた発展方策】

- ・白山図書館の閲覧席数の不足については、閲覧席設置のためのスペースを検討するとともに、今後予定されている学部再編や赤羽台キャンパスへの移転計画に係る赤羽台図書館（仮称）の設置の計画等の進捗を注視しながら問題解決に取り組む。
- ・板倉保存書庫が満杯となる時期が約8年後に迫っているため、将来的な書庫計画について図書館として検討するとともに、大学としても検討していく。
- ・今後の大学図書館は、図書等の冊子体資料から電子媒体資料へ比重が移りつつある。これは、学生や教員といった利用者のニーズであるため、今後も電子媒体資料への切り替えを加速していく。
- ・図書館の評価の指標として、これまでは主に入館者数や貸出冊数に着目していたが、図書館の資料媒体は電子化の傾向にあり、図書館に行かずとも自宅等から閲覧可能な資料が増加し、学外からの利用が増えているため、入館者数や貸出回数では図書館を評価しきれない。電子資料の閲覧回数も一つの評価指標として捉え、自己点検・評価の更なる改善に取り組む。

【根拠資料】※削除・修正

8-1-1 「平成30年度 東洋大学附属図書館 業務運営年次報告」

p10「3 各種記録 3-1 ガイダンス」

p11～19「3-2 展示・イベント」

p50～66「5-3-13 データベース・電子ジャーナル利用状況」

p67「6-1 図書館施設」座席数

p73「東洋大学附属図書館の理念」

p74「東洋大学附属図書館収書及び選書方針」

p75～77「東洋大学附属図書館規程」

p48～49「5-3-12 データベース・電子ジャーナル契約一覧」

p68「その他の施設・設備」（板倉保存書庫棚板枚数）

p93～94 「東洋大学学術情報リポジトリ規程」

8-1-2 「大学・短期大学・高専図書館調査票 2019」

8-1-3 東洋大学附属図書館貴重書デジタルコレクション <https://www.toyo.ac.jp/ja-JP/library/collection/>

8-1-4 「東洋大学附属図書館所蔵資料図録集」

https://www.toyo.ac.jp/-/media/Images/Toyo/library/collection/collection_material.ashx?la=ja-JP

8-1-5 「東洋大学 125周年記念事業図書館特別展示 存在の謎に挑む 哲学者井上円了」

https://www.toyo.ac.jp/dp2012/dp125th/_SWF_Window.html

8-1-6 「平成 30 年度定員数」

8-1-7 「図書館ガイド」

8-1-8 各種利用案内リーフレット <https://www.toyo.ac.jp/library/support/#e01>

8-1-9 開館カレンダー <https://www.toyo.ac.jp/library/guide/access/print/>

8-1-10 私立大学図書館協会ホームページ 2015～2018 年役員校

<https://www.jaspul.org/officer/2015/>

<https://www.jaspul.org/officer/2016/>

<https://www.jaspul.org/officer/2017/>

<https://www.jaspul.org/officer/2018/>

8-1-11 「令和元年度 学術情報基盤実態調査」調査票抜粋

8-2-1 「東洋大学井上円了学術コレクション取扱要領」